

## EDRA54thMexico 参加報告

大学院理工学研究科博士後期課程 2年 氏名 鎌田 吉紀



2023年6月23日に、Environment Design Research Associationが主催したEDRA 54<sup>th</sup>という国際会議に参加しました。EDRAは、環境デザインに関する研究分野の学会で、建築計画などの研究者による学会となっています。私の専門分野は

建築計画ですが、EDRAではコミュニティデザインや脱炭素に関わる研究も発表されていて、広範囲な分野が集まっていました。EDRA54thのテーマとして「Environment and Health」が挙げられており、気候変動や災害の心理的リスクや近年話題となっているwell-being(心身、社会的、経済的な健康)などについて取り上げていました。

私は、Individual Presentation: Abstractという10分程度で研究発表を行う方式で発表しました。発表題目は、「Parpetual Structure of Skyscrapers Façade」で、この研究は、超高層建築の外観に着目しその形態と見え方がどのような関係にあるのかを把握した研究です。超高層建築は都市のランドマークとして大変重要な存在です。また超高層建築は、外装のカーテンウォールも採光・遮光を考慮したものや換気システムを入れ込んだものなどファサードのデザインが多様であり、さらに構造デザインによって個性的な形のものも見られます。このような超高層建築の特徴に対して、歩行者はどのように外観を把握しているのか、VRを用いた仮想空間上で心理実験を行い、被験者の超高層建築に対する知覚の構造の一端を明らかにしました。超高層建築は、その高さからマンションやオフィスビル・商業ビルなどが一般的な中高層建築とは異なり広範囲の視点場から見られます。またその巨大さから外装に同じ素材・デザインが繰り返され(カーテンウォール等)一定のパターンを形成するなどの特殊性があり、設計者もそのパターンをどう見せるかが設計の一つの大きなテーマであると思います。そのような超高層建築の面白さに対して、歩行者の目線から見るとどうなのか?という視点でアプローチした研究です。都市環境の要素に対する景観デザインの研究として、発表しました。

学会の他の発表では、公共空間における人々の振る舞いに関する研究や、コミュニティによるQOL

を考える研究など、単一の建築に限らず様々な分野の研究発表を見ることができました。Well-beingやHealthに関わる環境デザインの研究のトレンドを勉強することができました。他にも、VR空間上で3次元に線が描ける3Dペイントによるデザイン手法の開発など、情報技術を活用した建築デザインの手法や解析方法についての発表が行われており、最新の知見を勉強してきました。

EDRAはアメリカに本部があり、学会は毎年開催され、アメリカ国内での開催が多いらしいのですが、私が参加した2023年はMexico cityで開催されました。会場は、メキシコ国内で最大規模の大学であるUNAM(メキシコ国立自治大学)で、高松宮殿下記念世界文化賞を受賞した建築家リカルド・レゴレッタなどを輩出した歴史ある場所でした。大学キャンパスが世界文化遺産に登録されており、構内にはメキシコの文化運動の象徴である壁画が大きく描かれた図書館など多くの名建築を見ることができました。特に印象深かったのは、生物学研究所のアーカイブを保存する博物館であるPabellón Nacional de la Biodiversidadでした。外装が上端のみ固定された小さな打抜鋼板で覆われており、風に揺れて動く不思議な建築でした。

対面の国際学会は、その国での新たな発見や勉強の場として、大変意義深いものとなりました。多賀工業会様による支援のおかげで、このような機会を得ることが出来、勉強と今後の励みになりました。この場を借りてお礼申し上げます。



写真1 発表の様子



写真2 Pabellón Nacional de la  
Biodiversidad